

主 題：キリスト者に与えられた務め
聖書箇所：ヨシュア記 1章1-9節

私たちは周りの環境が変わったとき、一転居、転勤、転校など、慣れるまで、自分が孤立しているような不安、恐れを抱くことがあります。私たちはどのようにそれらに対処してきたでしょうか？

先週私たちは、クリスチャンに与えられた目標を見ました。私たちは霊のいけにえを捧げる祭司であると。今日は私たちに与えられた務めについて、ヨシュア記1:1-9から学んでゆきましょう。

すべてのキリスト者に与えられた務めとは？

1. 主の命令に従う 1-4 節

○ヨシュアに与えられた命令とは……

ヨシュアはモーセの後を継いで約束の地に入るために、民の指導者となるように神によって命じられました。不従順な民を導くことは非常に困難なことです。民はモーセをどれほど悩ませたことでしょうか。石をもって向かうようなときもありました。民数記27:18「主はモーセに仰せられた。『あなたは神の霊の宿っている人、ヌンの子ヨシュアを取り、あなたの手を彼の上に置け。』、モーセの後継者として神が決められたのです。ヨシュアはその命令に従順に従いました。それは彼の信仰の現われです。しかし、○ヨシュアの不安を表わすことばは…

「モーセ」の名でした。偉大な指導者であり民の尊敬を得ていたモーセの名はヨシュアには重いものであったことでしょうか。しかし、神は「強くあれ。雄々しくあれ。」と何度もヨシュアに励ましを与えられます。ヨシュアはモーセより35才年少であったといわれます。親子ほどの年齢差です。モーセの後継者ヨシュアは神のご計画の中にあることでした。

○すべてのキリスト者がすべきこと…

神に従うことです。それによって神を証するのです。この10節以下を見ると、神の命令は民全体に与えられ、それを守ってゆくようにと、ヨシュアは告げます。私たちは神のみこころに従ってゆきます。

2. 大胆に生きる 5-9 節

ヨシュアに与えられた命令、神からの約束を見ましょう。

(1)神がともにいてくださる。

この約束は多くの信仰者に与えられました。創世記26:24にはイサクに対して、「わたしはあなたの父アブラハムの神である。恐れてはならない。わたしがあなたとともにいる。」。31:3にはヤコブに対して、「主はヤコブに仰せられた。『あなたが生まれた、あなたの先祖の国に帰りなさい。わたしはあなたとともにいる。』。また、出エジプト3:12にはモーセに対して「神は仰せられた。『わたしはあなたとともにいる。』と。1歴代誌12:18ではダビデに対して「ダビデよ。私たちはあなたの味方。エッサイの子よ。私たちはあなたとともにいる。」。新約聖書を見ましょう。マタイ28:18-20には弟子たちにイエスはこのような言われました。「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」と、これは私たちにも言われていることです。ヨハネ14:16,17を見ましょう。「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。その方は、真理の御霊です。…」、聖霊が私たちの内にいてくださるのです。ローマ8:26に「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。」とありますが、この「助けて」ということばは、ギリシャ語では「いっしょに」と「…の代わりに」と「取る、経験する」という三つのことばの合成語です。これは新約聖書では2回しか使われていません。ここと、もう一つはルカ10:40です。「…マルタは、…『主よ。妹が私だけにおもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのでしょうか。私の手伝いをするように、妹におっしゃってください。』とこの「手伝いをするように」がそうなのです。妹のマリヤが私といっしょに働いてくれるように、ということです。

(2)祝福を受ける。

神に従ってゆくから、神に喜ばれるものであるから、神からの祝福を受けるのです。「あなたは栄える」

と。そして、これは自分自身にも喜びであり、平安なのです。詩篇 32 篇はダビデの神から与えられた教訓が書かれています。

「幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。幸いなことよ。主が、咎をお認めにならない人、心に欺きのないその人は。私は黙っていたときには、一日中、うめいて、私の骨々は疲れ果てました。それは、御手が昼も夜も私の上に重くのしかかり、私の骨髓は、夏のひでりでかわききったからです。セラ、私は、自分の罪を、あなたに知らせ、私の咎を隠しませんでした。私は申しました。「私のそむきの罪を主に告白しよう。」すると、あなたは私の罪のとがめを赦されました。セラ」

私たちは恐れる必要はないのです。神がともにいてくださるからです。

淵田美津雄さんにまつわる話

彼は真珠湾攻撃部隊の隊長でした。その彼がクリスチャンとなり、牧師となって福音宣教のために用いられるようになるのですが、そのきっかけは、米軍に捕虜となった人たちの話からでした。その捕虜の中で献身的に働く一人のアメリカ人女性がいました。彼女の働きは捕虜たちにとって不思議でした。彼女の両親はフィリピンで宣教師として働いていたのですが、あるとき、日本兵に追われて追い詰められ、そこで、最後に願って、聖書を読み、祈りました。ついに銃殺されるのですが、両親は日本兵の救いのために祈ったことを彼女は確信して、それによって、日本兵に親切にできるということです。これは捕虜の人たちにも感動を与え、救われるたましいが起こされましたが、これを聞いた淵田さんは福音に関心をもつことになるのです。ルカ 23 : 34 「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」のみことばによって、淵田さんは罪を悔い改め、福音宣教のために献身するのです。神は彼を用いられ、その働きのために励まされます。

私たちも同様です。神の助けによって、福音を宣べ伝えてゆきましょう。